

鉄道2 土讃線(徳島県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
徳島92	池田町史編纂委員会編「池田町史 中巻」(池田町、1983年)、160-161頁、166-168頁	<p>土讃北線(讃岐財田・阿波池田)の開通 昭和四年四月、讃岐財田・阿波池田間(一九・八キロ)の鉄道開通により、池田町は高松と直接結びつくようになった。 (中略) この開通によって阿波池田駅は、徳島・高松・松山やがて高知を連絡する中心点として動き出した。</p> <p>土讃線全線の開通 (中略)昭和一〇年十一月二八日、三縄・豊永間を開業し、土讃線が全通した。(中略)こうして阿波池田駅は四国四県の連絡中継駅として脚光を浴びることになった。</p> <p>土讃線開通に伴う池田町市街地の変化 土讃線開通によって池田町は大きく変化した。土井仙吉は昭和初期から昭和二〇年代後半までの池田町市街地の変遷について次のように述べている。 「(中略)昭和九年伊予川之江との間に省営バスの開通、次いで一〇年十一月土讃線の全通をみるや、嘗ての徳島線終駅にすぎなかったこの町は、一躍四国鉄道交通の十字路的位置を占めることとなり駅を中心とする鉄道交通集落的色彩を強め、国道のもつ価値の相対的減少により町の中心が駅前通りに移動することとなった。即ち駅前通り中通り等の駅附近は多くの旅館飲食店を含む商店街となり、駅と専売局との間鉄道北側には製材工場自動車修理工場等が建てられた。……」(土井仙吉「地方小都市の成長過程—阿波池田町の場合—」(『徳島大学紀要』所収)</p>
徳島95	三縄村史編集委員会編「三縄村史」(三縄村史編集委員会、1960年)、498頁	<p>土讃線の開通 (中略) 三縄村では、鉄道の開通を機会に、各方面の交通施設が順次整い、産業の開発、文化の向上等、大いなる影響をもたらしている。</p> <p>三縄駅の新設 (中略) 三縄駅が村の交通、及び産業開発に及ぼした影響は大きく、特に三縄駅前を中心に附近一帯が、現状の発展振りを示したのは、この駅の新設に原因することが多い。</p>
徳島98	田村正編「三名村史」(山城町、1968年)、592頁	<p>大歩危駅と小歩危駅 (中略)この2つの駅開設は三名村にとっても躍進への大きな足がかりとなった。生産物の移出に、観光客の誘致に、通勤通学に村民になくはならない交通機関で、この鉄道から受ける本村の利益は大きい。</p>

鉄道2 土讃線(徳島県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
四国14	四国鉄道75年史編さん委員会編「四国鉄道75年史」(日本国有鉄道四国支店、1965年)、63頁	<p>土讃線の全通 (中略)最後に10年11月に三縄・豊永間が、国境の大歩危、小歩危の峡谷部で接続し、高松・高知間が全通したのである。</p> <p>これによって、四国山脈にはばまれていた徳島、香川との交通はもとより、中国、阪神地方とも線路を通じ、人の往来、思想の流通、物資の交換など産業文化の画期的発展を期待できると、地元新聞は5段抜き4本見出しで報じ、土讃線全通記念の<南国土佐大博覧会>が高知で催された。</p> <p>明治26年に土佐鉄道協会が発足してから42年目、須崎・日下間をはじめて汽車が走ってから11年目に、高知は陸の孤島から脱したのである。</p>
四国15	四鉄史編集委員会編「四鉄史」(四国旅客鉄道、1989年)、52-53頁	<p>土讃線の全通 (中略)10年11月28日に三縄・豊永間が、国境の大歩危、小歩危の峡谷部でつながり、高松・高知間が全通した。</p> <p>これによって四国山脈に阻まれていた徳島、香川との交通はもとより、中国、阪神地方とも線路を通じ、人の往来、思想の流通、物資の交換など産業文化の画期的発展を期待できると、地元新聞は5段抜き4本見出しで報じ、土讃線全通記念の「南国土佐大博覧会」が高知で開催された。</p> <p>明治26年に土佐鉄道協会が発足してから42年目、須崎・日下間を初めて汽車が走ってから11年目に、高知は陸の孤島から脱したのである。</p>